

復興に関する住民懇談会（鳳至・海士・輪島崎地区）

議事要旨

日 時 令和8年1月10日（土） 13:30～14:12

場 所 輪島消防署 2Fホール

出席者 住民側：10名

行政側：輪島市 坂口市長、中山副市長、小川教育長、中前総務部長、山本企画復興部長、川端市民生活部長、河崎健康福祉部長、永井産業部長、福尾建設部長、田川建設部技監、木下教育部長、上島まちづくり推進課長

事務局：田中復興推進課長、一本松

① 市長挨拶

市 長：年明け早々にお集まりいただき感謝する。震災から3年目に入り、この大切な年は復旧・復興を目に見える形で加速させ、未来に希望が持てる年にしたい。

これまで設計・測量に思った以上に時間がかかっている状況であったが、今年3月までに設計が7割方終わる見込み。設計ができたものから順次工事発注しており、現時点で約2割が工事発注済み。設計・測量だけで300億円という大きな額がかかるが、ただ震災前の元に戻すだけではなく、また来るかもしれない災害にも備えて「より良く戻す」という方針としたため時間を要している。

道路、河川といったインフラ、災害公営住宅の建設に加え、新たな産業の創出などにもチャレンジしていきたい。本日は現状を資料に基づいて説明し、その上で皆様とともに復興を進めていくため、どのような課題があるかご意見を伺いたい。

② 復興に関する取組内容の説明

（配付資料に基づき、インフラ復旧、住宅再建、産業・生業の再興、医療・福祉体制、学校再編等、現時点の復旧・復興計画と進捗状況について説明を行った。）

③ 意見交換・質疑応答

鳳至町・住民：自分の旅館（八汐）裏の鳳来山公園周辺の工事の状況について、いつ頃・どの程度まで進む見込みか。おおよその時期や、どれぐらいの時期に何ができるかといったビジョンを住民にアナウンスしてもらえると、住宅を建てられるのかどうか、戻るか戻らないかといった生活設計もしやすくなる。

市 長：鳳来山公園については後ほど担当からも説明させるが、河川や治山、地すべり区域対策も含め、全部終わるのは12～13年かかる見込み。治山の工事に一番時間がかかる。

道路・河川は遅くとも5年程度で完了させたい。橋りょうの架け替えに一番時間がかかる見込みで、上新橋や新橋などはすべて架け替えを想定している。一本の橋の架け替えに、仮橋を作っとう回路を確保することも含めて約5年かかる。同時にやれるところと、時期をずらして整備するところがある。河川の上流側の治山対策は10年ほどかかる見込み。

上島まちづくり推進課長：鳳来山公園の八汐側の工事については、そろそろ着手できる見込みで、何ごとともなければ今年中になんとか完了させたい。

市 長：設計にも非常に時間がかかった。工事作業員の宿泊所の準備も必要で、そこにも時間を要するが、工事が始まり出すと進み方は早いと思うのでご安心をいただきたい。

鳳至町・住民：海士町など、かなり更地になっていて建てられるのかどうか不安や噂話もあったので、今の回答でよく分かった。ありがとうございます。

観光の面について、県では和倉温泉の復旧・復興が一丁目一番地と言われているが、私からは「輪島温泉郷も忘れないでね」と提案している。輪島温泉郷は奥能登唯一の温泉郷でもあるので、和倉温泉と輪島温泉郷をセットでアピールしていただきたい。知事にもその点をぜひ伝えてほしい。

市 長：輪島温泉郷についてももしっかりアピール・発信していきたい。

鳳至町・住民：提案だが、朝市はこれから復興が進んでいくと思う一方、輪島にはかつて夕市があった。その夕市の復活についてのご検討いただければ。

市 長：朝市に関しては、区画整理の準備を進めており、今年の春先から仮設商店の建設が始まる予定である。

夕市については、かつては「輪島の魚は夕市が一番新鮮だ」といった話もあり、ぜひという話も聞いている。やる気のある方と一緒に、実現できればと考えている。

鳳至町・住民：インフラ復旧状況について、河川護岸以外は本当にこれで良いのか、また大雨が降れば再び氾濫するのではないかという思いがある。川幅を広げる、護岸をかさ上げするなどの対策を考えておられるのか。河川は石川県が管理しているのは重々承知の上で、輪島市としてどのように対策・要望しているのか伺いたい。

市 長：河川は塚田川、河原田川で大きな被害があったが、県と協議を続けている。

河原田川に関しては、堤防を越波したわけではないが、同等規模の被害があったときを想定して、一部で川幅を広げる、また川底を掘り込んで流量を増やすなどの復旧計画となっている。

塚田川についても、より良いものにするという方針で計画しており、順次発注にかかっている。河川の工事は既に一部で始まっている。

住民：小学校について、今年から通常の学校組織になるのかと思うが、個人的な心配として、これまでは元の小学校から来た色々な学校の先生が集まっており、今後、学校の先生や支援員が減ってしまうのではないかという不安がある。職員の数や、補助してくれるボランティアがどのような体制で子どもを見守っていくのか知りたい。

小川教育長：昨年度から、6校分の先生が1箇所に集まる形で運営してきたが、特例として徐々に通常体制に戻していくという考え方で進めている。

来年度からは学校規模に合わせて適正規模の教職員配置とし、通常の形に戻ることになる。ただ、いきなり6校体制の先生方が一気に減るということではなく、段階的に移行していく。子どもたちの心のサポートも含めて県とも話をしている。

一方で、例えば2クラスであれば担任は2人といったように、学級数に応じた通常の教員配置の規模に移行していくことについては、ご理解いただきたい。

鳳至町・住民：資料7ページの子育て支援の取組について、輪島市は色々頑張っていると思う。「出産サポート119」などは大変手厚い支援だと感じている。

こうした取組は市のLINEでは市民に届くが、これから移住したい人、支援したいと思う人にもアピールしてはどうか。例えばSNSなどで発信していただくと、どこかで拡散され、関係人口の増加や移住促進につながるのではないかと。インスタグラ

ム、Xなど拡散できるツールで情報発信していただきたい。高市総理が来られたときの市長の挨拶も全国に拡散され、ふるさと納税の増加につながるような話題づくりにもなり得るので、そうした観点も含めてお願いしたい。

山本企画振興部長：SNSで情報を流すということは、日本だけでなく世界にも届く。今後、公式LINE（輪島市民約2万1000人が登録）に加え、インスタグラム、Xなど色々な媒体を使って、「出産サポート119」を含め様々な情報を流していきたい。

市長：高市総理が来られたときの自分の発言はオフレコのみだったが、意外に広がった。発信の仕方は今後も勉強しながら取り組んでいきたい。

以上

